

平成26年度

河南町中学生海外派遣事業報告書

平成26年8月2日（土）～8月10日（日）



河南町教育委員会

中学生海外派遣事業概要

1. 目的

河南町では、21世紀を担う中学生を海外に派遣し、異文化に触れ、コミュニケーション能力を高めるとともに、国際感覚を養い、国際社会に貢献できる人材を育成するために中学生海外派遣事業を実施する。



The graphic features a blue background with a white border. On the left is a photograph of the Singapore skyline with the Merlion fountain. On the right, the text 'SINGAPORE シンガポール' is displayed above the Singapore flag. Below this, three bullet points provide information: distance from Japan, safety in Asia, and official languages.

SINGAPORE
シンガポール

・日本からの距離
⇒飛行機での渡航時間が約6～7時間
⇒日本との時差1時間

・アジアで一番安全なシンガポール
⇒シンガポールには、約27,000人の日本人が在留し、毎年50万人以上の日本人観光客が来訪しています。(MOFA調べ)アジアの中でも治安が良く、清潔だと評判で、家族旅行にもお勧めだと言われています。

・公用語が英語
⇒英語、中国語、マレー語、タミール語の4種類の言語が使用されています。国民が学校教育で英語と母語の両方を習熟しており、この教育がシンガポールの経済競争力の高さの主因とも言われています。

2. 派遣先 シンガポール

語学学校：SSTC School for Further Education

住所：9 Penang Road, #09-03 Parkmall, Singapore 238459

滞在先：Rose Lodge

住所：331 Yio Chu Kang Road, Singapore 805960

3. 派遣期間 平成26年8月2日(土)～8月10日(日)

4. 派遣生徒及び引率者

乾 彩人(2年) 加藤 咲季(2年) 高木 大地(2年) 中野 愛(2年)

福本 真也(2年) 松澤 香奈(2年) 川村 綾太郎(3年)

パンディ 摩耶(3年) 南口 麻理嘉(3年) 三村 高星(3年)

清水 啓史(指導主事) 向井 妙(教育課主任)

5. スケジュール

募集説明会	平成26年5月18日(日) 午後1時～3時	役場4階大会議室
申込期限	6月13日(金) 午後5時	
派遣生徒決定	6月18日(水)	
保護者説明会	6月26日(木) 午後7時～9時	役場4階401会議室
第1回事前研修	7月13日(日) 午前9時～午後4時	役場4階大会議室
第2回事前研修	7月27日(日) 午前9時～11時	役場4階大会議室
出発当日集合時間	8月2日(土) 午後9時30分	
集合場所	関西国際空港	4階国際線出発フロアHカウンター 前



行 程 表

日時	月 日	都市	時間	スケジュール	食事	宿泊
1	8/2(土)	関西 関西国際空港 発	21:30 23:30	空港集合 シンガポール航空(SQ)615便にて空路 シンガポールへ	機内	機内
2	8/3(日)	シンガポール	05:10 12:00 午後 18:00	入国審査・通関手続き後、専用車にて滞在先へ 滞在先にて朝食後、休憩 近くのショッピングモールにて昼食 シンガポール国立博物館 滞在先にて夕食	朝食 昼食 夕食	ローズ ロッジ
3	8/4(月)	シンガポール	07:00 08:00 終日 17:00 18:00	滞在先にて朝食 公共の交通機関を使って SSTC (語学学校へ) SSTCにて英語のレッスン 公共の交通機関を使って滞在先へ 滞在先にて夕食	朝食 昼食 夕食	ローズ ロッジ

4	8/5(火)	シンガポール	06:00 06:45 07:30 12:30 13:30 17:00 18:00	滞在先にて朝食 専用車にてYSS(現地校)へ 現地校にて授業、国際交流 公共の交通機関を使ってNTU(現地の大学)へ 昼食後、大学キャンパスツアー 専用車にて滞在先へ 滞在先にて夕食	朝食 昼食 夕食	ローズ ロッジ
5	8/6(水)	シンガポール	06:00 06:45 07:30 12:30 13:30 17:00 18:00	滞在先にて朝食 専用車にてYSS(現地校)へ 現地校にて授業、国際交流 公共の交通機関を使ってシンガポール市内へ シンガポールフライヤー リバークルーズ・マーライオン公園 公共の交通機関を使って滞在先へ 滞在先にて夕食	朝食 昼食 夕食	ローズ ロッジ
6	8/7(木)	シンガポール	06:00 06:45 07:30 12:30 午後 17:00 20:30	滞在先にて朝食 専用車にてYSS(現地校)へ 現地校にて授業、国際交流 公共の交通機関を使ってSSTCへ SSTCにて英語レッスン 公共の交通機関を使ってセントーサ島へ セントーサ島にてナイトショー鑑賞 専用車にて滞在先へ	朝食 昼食 夕食	ローズ ロッジ
7	8/8(金)	シンガポール	06:00 06:45 07:30 12:30 午後 17:00 21:30	滞在先にて朝食 専用車にてYSS(現地校)へ 現地校にて授業、国際交流 公共の交通機関を使ってSSTCへ SSTCにて英語レッスン 専用車にてナイトサファリへ 専用車にて滞在先へ	朝食 昼食 夕食	ローズ ロッジ
8	8/9(土)	シンガポール	07:30 終日 18:00 22:00 (遅延)	滞在先にて朝食 グループ行動 滞在先にて夕食・パッキング →台風のため飛行機遅延。滞在先にて待機。 翌日 04:00 シンガポールチャンギ空港へ チェックイン・出国審査	朝食 昼食 夕食	
9	8/10(日)	シンガポール	01:25 09:00	08:00 シンガポール航空(SQ)618便にて 空路関西国際空港へ 15:45 入国審査・通関審査後、解散	機内	

中学生海外派遣事業（シンガポール）を
振り返って

河南町教育委員会
指導主事 清水 啓史

グローバル化が進む中、国際共通語とも言える「英語」でのコミュニケーション能力を高めることは、海外へ旅行したり、仕事で出かけたりすることが、今よりもっと一般的になっていく、子ども達の可能性を大きく広げることは言うまでもありません。

特にシンガポールはアジアの中心に位置し、中国系やインド系、マレー系といった様々なアジアの民族の文化、また欧米系などの西洋の文化が混在している世界の縮図のような都市国家です。また近年の経済成長も目を瞠るものがあり、アジアの発展を象徴するような国であると言えます。学生時代に身につけた教養やコミュニケーション能力を活かし、世界を舞台にして活躍が期待されている子ども達にとって、語学研修をはじめとするシンガポールでの経験は大変貴重なものになると考えました。

平成26年8月2日より9日間の日程で行われたシンガポールへの中学生海外派遣事業を振り返ると、到着2日目に行った語学学校においては、英語を学ぶためにアジアの様々な国からやってきた学生に、中学生はおおいに刺激を受け、大学のキャンパスツアーでは世界各国からの留学生が広大なキャンパスで学ぶ姿を見て、将来の夢をふくらませました。

しかし、なによりも生徒たちにとって深く印象に残っているのは、4日間に渡る現地の中学生との交流ではなかったかと思います。一人ひとりの生徒にバディと呼ばれる現地中学生がついてくれましたが、当初はお互いぎこちない様子であったのが、一緒に授業を受けたり、休憩時間にスポーツをしたり、軽食をとったりしているうちに、見る見るうちに

言葉の壁を感じさせないくらい打ち解け、中学生らしい笑顔が見られました。

特に最終日はシンガポールのナショナルデー（独立記念日）の前日ということで、学校において厳粛な式典のあと、学園祭のような催しも有り、ともに楽しむとともに、様々な肌の色を持ち、様々な文化を持つ多民族国家であるシンガポールに対して自然な形で愛国心を表していることにも新鮮な驚きを感じているようでした。先の大戦において日本との間に、不幸な歴史があったにもかかわらず、私達は行く先々で、好意的に迎えられ、また市内観光では世界各国の食事や文化を体験でき、中学生たちもシンガポールという国にすっかり魅せられた様子でした。

今回の派遣事業を終えて、参加した中学生は、これからの自分の将来に夢をふくらませたり、もっともっと英語を学びたいといった前向きな気持をもってくれたようです。

多くの町民の皆さんが期待する中で、実施したこの派遣事業は、参加した中学生がそういった気持を持ったことだけで満足するものではありません。参加した中学生が学校生活で一生懸命、英語を学び、海外で活躍することを夢見て努力し続けること、そして将来、その夢を実現すること、その姿を見て、さらに後に続く世代がその人に憧れ、目標にして頑張っていくようになったら、とても素敵なことだと思います。





中学生海外派遣事業を終えて

河南町立中学校二年 乾 彩人

今回の中学生海外派遣事業でシンガポールに行こうと思っただけで理由は大きく分けて3つあります。

1つ目は友達と一緒にいこうと誘われ、海外ってどんな感じなのだろうと興味があったからです。2つ目は水泳選手等の自分の将来の夢のことで、3つ目は外国の独特な文化や世界遺産などに興味があり、それらを自分の足で行き触れてみたかったからです。

今回、実際にシンガポールへ行って学んだことや感じたことはたくさんあったのですが、その中でも特に思ったことが4つあります。

1つ目は、昔シンガポールは日本と戦争をしていて、たくさんの人々が日本人に殺され、ひどいこともたくさんされたはずなのに、自分の現地のバディやその周りの人だけでなく、町中の色々な人が優しく接してくれて、「心がとても広い人達だな。」と心の底から思いました。2つ目は現地のバディのことです。彼は、初めて見る子が周りにたくさんいて緊張していた僕に積極的に話しかけてくれました。また、彼の言っていることがあまりわからずオドオドして困っていると、辞書をとって翻訳してくれて、コミュニケーションをとろうとしているところを見て、日本人の穏やかな性格とはまた違う良いところがあるのだと感じとれました。3つ目は、シンガポールはオセアニア州に属している小さな島というの

はわかっていましたが、実際にシンガポールへ行ってみると、島はたしかに小さいですが、その中でも町はこの国の地形にあった形をしていて、何より路上や道のはしっこにゴミがないのに驚きました。また、バスや電車などの公共施設で老人や妊婦、体の不自由な人に座席をゆずるのをみて、「日本人と性格は違っているけど、なんか日本人と一緒にいるような気がする。」と思って感動しました。でも、僕は気が付くのが遅くてそういうことができなかったのも、次からはどこになにがあってももっとちゃんとしようと自分の勉強になりました。4つ目は、シンガポールのナイトショーやナイトサファリで、毎日同じことを一日に何回もしているのに、一切のぬかりもなく全てちゃんとやっていることがスゴイと思っただけで、自分もこんな風にちゃんとしたいなと思っただけです。

今回の中学生海外派遣事業でシンガポールに行き、現地の中学校の人達やバディ、また現地の人が、英語が無理だったら日本語で表してくれたり、積極的に話すなどの優しさをたくさん感じる事ができました。また、志望した理由の中の将来の夢のこと、海外の異文化に触れることが充実してでき、楽しむ事ができました。今回の中学生海外派遣事業でシンガポールに行ったことが、これからの生活や人生に大きな勉強になったので、このことを生かしてこれから生きていきたいと思っただけです。





中学生海外派遣事業を終えて

河南町立中学校二年 加藤 咲季

私が、中学生海外派遣事業に応募した理由は、英語が苦手なので、それを少しでもなおしたかったのと、将来の夢はまだ決まっていのですが、その夢のために役立つ事してみようと思ったからです。

シンガポールで学んだこと、感じたことは、最初は、単語とか知っていればなんとかなると思っていましたが、話してみると全くわからない単語が出てきて、全然話せなかったのもっとちゃんと勉強すれば良かったと思いました。でも、現地の中学生の人たちはわかりやすい言葉にしてくれたり、色々してくれたので、会話しているみたいで楽しかった。言葉が通じなくても、仲良くすることができるのだと思いました。他にも英語がわからない私のために、日本語でがんばって話してくれたり、YES・NOで答えられるようにしてくれて、人の気づかいみたいなものを学んだ気がしました。それでも、通じなかったり、答えてくれなかったりした時もあったので、日本に帰ったら英語を勉強しようと思いました。できれば、英語が完璧に話せるようになってから、もう一回シンガポールに来て、現地の中学生やまわりの人と話せたらいいなと思いました。今回シンガポールで過ごした日の中で、通じなかったり答えられなかったりしたのが、次にシンガポールに来た時は、英語をもっと話せるようになって、何

回も同じことをくり返していますが、少し長い会話でも、完璧に話せたらいいなと思いました。

今回の中学生海外派遣事業で学んだこと、感じたことを、日本に帰ってからの中学校の英語の授業やそれ以外の教科、テストなどに役立てていけたらいいなと思います。将来の夢を探すためと、その将来の夢にも役立てていきたいです。また同じことになりますが、何年後になるかわかりませんが、英語がもっとたくさん話せるようになったら、今回参加した仲の良い友達と一緒に、もう一度シンガポールに来たいと思います。シンガポールは人生で初めて行った海外なので、たぶん忘れないと思います。シンガポールでの出来事や学んだこと、感じたことを忘れないように、これからの人生で役立てる時が来るかわかりませんが、そういう時が来たら全部発揮できるように、日本に帰ったら思い出して、学んだことを修復しようと思います。

中学生海外派遣事業は私が思っていたよりも楽しくて、日本に帰ったら英語を勉強しようという気にさせてくれる旅でした。海外のイメージをいいものにしてくれて、同時に日本の良さも実感できたので、とても充実した派遣事業になったと思います。とても楽しかったので、シンガポールにあと一年ぐらい平気でいられるような気がします。中学生の間に海外に行ける機会があるというのは、とても幸せだと思います。そんな機会をあたえてくださり、本当にありがとうございました。充実した9日間でした。





中学生海外派遣事業を終えて

河南町立中学校二年 高木 大地

僕がこの海外派遣に志望した理由は、将来どんな仕事に就くか分からないので、英語を含め外国語を知っておいて損はないと思ったからです。また、三年生になると授業が難しくなり、高校の入学試験に向けての勉強が必要になるのでちょうどいい機会だと思い、志望しました。

シンガポールは日本とは違う世界なので、財布の持つ位置や日本語を控えるなどの配慮に気がつけました。この事業で僕が感じたことは大きく3つあります。

まず1つ目は、日本で習う英語と現地の英語の発音の違いです。英語や国際の授業で習った30 (thirty) やどこ (where) が伝わりにくかったのが、とても印象に残っています。とくに現地の中学校(以下 YSS)では、何度言っても伝わらず、5回ほど言い直したこともありました。逆に、自分のバディが一生懸命話してくれた英語が、何度聞いても理解できずに聞きなおしたり、ゆっくり話してもらうなど、とても迷惑をかけました。でもそのおかげで、最終日には1、2回で聞き取って応答できるようになりました。

2つ目は、シンガポール人のフレンドリーな性格に驚きました。いちばん初め、学校に行った時、僕はとても緊張していたのに、バディを含め現地の中学校の雰囲気にも包まれて、10分もしないうちに仲良くなりました。最終日の四

日目、別れ際に何回も何回も日本語を使って「さようなら」を言ってくれてとても感動しました。授業でも、ひとつもわからない僕達に、自分の勉強時間を削ってまでがんばって教えてくれました。できるだけわかりやすい英語で教えてくれて本当に嬉しかったです。

最後に3つ目は、食べ物の違いです。シンガポールの飲み物は4割がとても薄く感じました。でもシンガポールにしかないミルクティーや、日本にはないストロベリーファンタはとてもおいしかったです。シンガポールは人種がとても多く、中国系(華人)、マレーシア系、インド系などたくさんいるので、食べ物のバリエーションも多く、選ぶのが難しかったです。その中で僕のいちばんの好みだったのが「チキンライス」です。どの店に行ってもおいてあるので、この一週間で7~8皿食べてしまいました。ご飯の上にチキン、ソースのみでとてもシンプルですが、毎日食べても飽きのこない味で、またリーズナブルな値段でした。

最後に僕が活かしていきたいことは、お金はもちろん、友達を大事にしていきたいということです。そして、シンガポールで友だちになった人達を見習って、フレンドリーかつ思いやりのある人になりたいです。英語は学校の授業や海外へ行くときに役立てたいです。このシンガポール研修で学んだことは、他にもたくさんありました。僕達をサポートしてくれた皆さん、本当にありがとうございました。この経験をいかしてがんばりますので、何かあればまたよろしくお願いします。





中学生海外派遣事業を終えて

河南町立中学校二年 中野 愛

私がこの中学生海外派遣事業に志望した動機は、将来通訳という仕事に就きたいからです。最初は、シンガポールに行ってみたら外国に対する自分の考え方も変わるだろうなというような軽い気持ちでした。

行くまでは中学2年生までの英語だけで、ちゃんと会話ができるかなとか、いつも学校のテストでリスニングが苦手だから、英語で話しかけられても全然わからなかったらどうしようとか不安でした。でも実際、シンガポールに来てみて、現地校の生徒の人と話せた時とても嬉しくて、不安に思っていたことを忘れたぐらいです。それよりも、自分の頭で思っていることをちゃんと英語にして会話ができたらいいのにと、とても強く思いました。現地の子はとてもフレンドリーで初対面の私に「こんにちは」と日本語で話しかけてくれたり、日本語を勉強して日本語で会話が成立するほどまでしてくれた子もいました。なんて言ったかわからない時はYESかNOで答えられる質問に変えてくれました。とにかく親切で、英語が少ししかわからない私に、必死にわかるようにがんばってくれました。中学校の英語では文法を中心に習っているけど、実際英語で話すとなると文法より単語のほうが必要だと思いました。文法が間違っているけど単語を並べるだけでなにが言い

たいのか相手は分かってくれるし、絶対単語をたくさん知っているほうが会話もつながると思います。現地の学校にももう少しいたいと思いました。シンガポール建国記念日前日の学校では、文化祭のようなお祭りがありました。クラスごとにオリジナルのTシャツを着て、各クラス出し物をして、とても楽しそうでした。それを見てシンガポールの人には自分の国に対する愛がとても強いのだなと思いました。

SSTC という語学学校では英語の基本を学びました。違う国の人と友達になるという内容の授業で中国の方と話しました。その授業は初日の方だったので英語を話すことに対して、発音が間違っていたらどうしようなどの不安を抱いていて、英語を話すことをためらっていました。何を言っているのかわからなくて戸惑っていたら、中国の子が「リラックス、リラックス。」と声をかけてくれて、それから自分から口を開くようになりました。でも、発音が間違っていることがとても多くあり、そんな時には紙にスペルを書いて確かめてくれました。やはり、話してみないことには何も始まらないし、やってみる、チャレンジすることが何よりも大切だと思いました。

日本に帰っても、現地校の子との交流の時に思った、自分の言いたいことを正しい英語に訳して話せないという悔しい気持ちをバネに英語の勉強をがんばろうと思います。そして、何事にもチャレンジすることを忘れずにいようと思います。英語を話せるようになってまたシンガポールに戻ってきたいです。





中学生海外派遣事業を終えて

河南町立中学校二年 福本 真也

僕が中学生海外派遣事業に志望した動機は、先の志望動機作文に書いた通り、英語検定一級を目指してがんばっているのだからそれにいかしたいと思ったことと、自分の英語力を上げたいと思ったからです。

僕がシンガポールで感じたことは、YSS(現地の中学校)ではいろんな国の子供が入り交じって授業を受けていたことです。僕の予想ではシンガポール人だけだと思っていた、それとは真逆だったので、最初は どうやって会話しているのかなと思いました。そしたら、みんなふつうに英語を話していて、YSSの生徒会の子たちは少しなら日本語も話すことができるし、携帯電話などを使って休み時間に話してくれたりもしました。

授業内容について、5教科はもちろん副教科もあったし、中国語の授業もあって、意味はよくわからなかったけど、楽しく授業を受けることができました。最終日、建国記念日前日には、クラスごとに模擬店を出して代わる代わる店番をしたりして、楽しく過ごしました。

次にSSTC(語学学校)では、予想通りいろんな国から生徒が来ていました。中には日本人もいて驚きました。僕達でも辞書を使えばわかることができたし、授業中も先生たちがおもしろ

くしてくれて楽しかったです

シンガポールの食事についてはいろんな国の人のために、いろんな種類の料理がありました。なかでもチキンライスはおいしく食べたり、他の国の人もおいしそうに食べていました。知名度の高い料理だと思いました。飲み物では「A&W」というのがYSSの生徒たちやバディもおいしいと言っていたので買って飲んでみましたが、それほどおいしくなかったです。外人の好みと日本人の好みの違いがでたなと思いました。最終日に行ったミルクティーのお店では日本人も好きな味だと思いました。

最後に、これからの学校生活に生かしていきたいことが3つあります。1つ目、英語検定一級を目指すということでは、外人が言う英文の発音のアクセントの位置に気を付けて聞かないと聞き取れないので、英検のリスニングテストでも気を付けてやりたいと思いました。2つ目に中学校の英語の定期テストで、シンガポールへ行く前と行った後では、自分がどれだけ海外派遣での成果を発揮できるかがわかるので、がんばりたいです。最後に将来、英語関係の仕事にも生かすことができるし、高校・大学の入試にも役立てることができると思うので、今回のことを忘れないで生かしていこうと思います。





中学生海外派遣事業を終えて

河南町立中学校二年 松澤 香奈

私が海外派遣に応募した理由は、お父さんとお母さんに「行って見たら？」と言われたからです。最初は行くのは嫌だったけれど、資料をみて楽しそうだったし、将来留学したいので行ってみようと思いました。

飛行機に乗ってシンガポールに着いたとき、すべてが英語で、まだ話せない私はすごく不安になりました。最初は本当に日本に帰りたいて思っていました。最初は帰りにくいなと思いました。特に YSS で中学生のみんなとバイバイするのはとても嫌で、悲しかったです。YSS では現地の中学生と一緒に授業を受けました。はじめは全然英語がわからず緊張していて会話ができなかったけど、現地の中学生がとてもやさしくしてくれて、だんだん会話を通じるようになっていきました。中学校の先生が一時間だけ自由時間をくれて、その時間にアドレスを交換したり写真を撮ったりしました。そのとき全然話せなくて、アドレスを交換するのちょっと戸惑ったりしました。もっと英語が話せるようになりたいと思いました。YSS 最終日は授業がなく、シンガポール国立記念日のお祝いでもとても楽しかったです。吹奏楽部の人たちが日本の曲を演奏してくれてびっくりしました。シンガポールで日本のアニメが結構知られていて、それもびっくりしました。他にもいろいろなパフ

オーマンスを見て、とても楽しい気分になりました。その後、中学生のみんなが食べ物などを売ったりして、文化祭みたいですごかったです。そこで、ヘナタトゥーをいれてもらって、とてもとてもうれしかったです。お別れに時、バディの子とプレゼント交換をして、現地の中学生といっぱい写真を撮って、何度も握手をしました。YSS のおもてなしはすごかったし、みんなやさしくて、先生もおもしろくて本当にいい中学校だなと思いました。もう YSS には行けないけど、みんなとアドレス交換をしたので、連絡を続けて、またシンガポールか日本で会えたらいいなと思いました。というか、絶対に会いに行きます。

この海外派遣事業でシンガポールにきて、本当にいろいろ大切なことを学びました。最初は全然何も話せなかったし、声をかける勇気もなにもなかったけど、だんだんと話せるようになってきて、声もかけられるようになってきました。でも、完璧に話せるわけがないし、まだまだなので、今回シンガポールに来てみて留学したいという気持ちが大きくなりました。英語が話せたらいろいろな国の人と会話ができるし、これからの将来に絶対役立つと思います。向井さんやしぶきさんを見ていて、英語が話せるって本当にかっこいいなと思いました。私は今、将来英語に関わる仕事がしたいなと思っているので、この経験をいかして、これから英語が話せるようがんばっていきたいです。





中学生海外派遣事業を終えて

河南町立中学校三年 川村 綾太郎

私がこの海外派遣に参加した理由は、参加する事によって、海外の人々の事や自分の国とは全く違う文化などを学ぶ事ができると思ったからです。英語の勉強にもなるし、もっと海外を知って、外国の人々と友達になれたらいいと思いました。海外のことをもっと知ることによって私自身の視野が広がり、またその事によって、今現在この国がどんな現場なのかを知ることができるからです。この全てが私の参加した理由です。

私がシンガポールで学んだ事は、赤信号でも人々がふつうにわたっている事。これは日本ではまず考えられないことです。私ははじめ見たとき、本当にびっくりしました。あと、中国人や韓国人とかの人種が私の想像よりもとても多かったことです。

私がこの国に来て感じた事は、現地の人々がとてもやさしいという事です。何がやさしいかというと、私が現地の YSS という中学校に行ったとき、現地の中学生たちが私達をやさしく向かい入れてくれたことです。私が Hello と言うと、笑顔で Hello と言ってくれたこの瞬間、心が暖かくなりました。また、生徒と会話をしていて、私の分からない単語が出てきた時、一生懸命私がわかるまで教えてくれました。また現地の中学校のお昼休みに、アイスやお菓子を買ってくれました。本

当に感動しました。私はこの8日間、この国で学んだ事を活用していきたいなと思いました。

活用したいこと1つ目は、現地の中学生みたいに人にやさしくする。2つ目は、あいさつは笑顔で元気よくしたいと思っています。いま私は中学三年生で、この時期いろいろあって、あいさつも以前に比べれば減っていると思うのでこの事を活用したいです。

そして3つ目は、人が困っている時には助けてあげる。この事は必ず活用したいと思っています。なぜなら、助けられた方もうれしいし、助けた方も良い気持ちになります。もうこれは一石二鳥ですね。私の中では3つ目がいちばん好きです。他にもいろいろ活用したいことがあるのですが、その中のベスト3を言いました。

最後に、これは絶対に真似したくないなと思ったことを2つ言います。1つ目は話にも出てきましたが、赤信号なのにふつうに歩いて渡る。これはドライバーに失礼な行為です。日本に帰ってもこれは絶対にしません。2つ目は、コンビニに寄った時、ポテトチップス等のお菓子の袋の中身が誰かに食べられていた事です。いくらお腹が空いていても売り物に手を出してはいけないと思いました。絶対にこれは活用したくないです。

最後に私の感想を言いたいと思います。シンガポールの人々はとてもやさしくて良い人が多かったです。そこは、日本と変わらないなと思いました。もう一つ思ったことはやはり気候もいいし楽しい人が多いので、住むには良い国だと思いました。英語の勉強もできたし、シンガポールの友達もたくさん作れたので良かったです。この8日間は私にとって一生の宝物です。またシンガポールに来ることがあれば来たいです。8日間、本当に楽しかったです。



中学生海外派遣事業を終えて

河南町立中学校三年 パンディ 摩耶

私がこのシンガポール海外派遣事業に応募した理由は、今の自分の実力で、どれほど外国の人と英語を話したり聞き取ったりできるか試したかったからです。実際にやってみると、最初は思ったより話せなかったけれど、YSSに行ったりSSTCに行ったりして現地の子たちと仲良くなって話しているうちに、前よりは聞き取れるようになったし、話せるようになりました。話したい内容を文章にして頭で考えて話すことは無理だったけれど、単語やYES・NOを言うだけでも話すことができたので、うれしかったです。この海外派遣で最初に私が学んだのは、単語がとても大切だということです。日本に帰ってから、私は英語が苦手なので、単語だけでもいっぱい覚えようと思いました。

他に私がシンガポールで学んだのは、勇気を出して外国の人に話してみると、外国の人はやさしく答えてくれて楽しいということです。最初は、きちんと伝わるかとか、返事をしてくれるかとか、色々心配していたけど、外国の人は私が思っているよりもやさしく、向こうから話しかけてくれたりして、とてもうれしかったし、次は自分から話しかけてみようと思いました。私は初対面の人と話したり、歩いている人に道をきくのは苦手だったけど、これからは勇気を出して自分から話しかけてみようと思いました。

このシンガポール海外派遣に行って、海外で働きたい、外国に住んでみたい、旅行会社の仕事に就きたいという夢が広がりました。最初は日本で働きたいという夢の方が強かったけれど、今は外国で働きたいという夢の方が強くなりました。この海外派遣に行ったことで、私の夢が広がりました。視野が広がりました。今までにシンガポールに来たことがなかったので、「この国の人こんな食べ物食べているんだ。」とか「こんな服が流行っているんだ。」と思いました。これからもっともっと違う国に行って、自分の視野をどんどん広げようと思います。

これからの学校生活や人生に生かしていきたいことは、いろいろな所で人を喜ばせたり、困っている人を助けたりしたいと思います。私は日本で生まれて、日本で家族と住んでいて裕福な人生を過ごしているけれど、貧しい人がいる国で仕事やボランティアをして、その人達の助けになれるようなことをしてみたいなと思いました。

今回あまり英語で話せなかったところもあるので、学校生活ではもっともっと先生の話に授業中しっかり聞いて、毎日単語の練習をして、次に行くときには今よりも英語をもっと話せるようにして、現地の子たちとたくさん話したいです。

この海外派遣で色々なことを体験できたし、学んだこともいっぱいありました。とても楽しくて良い経験になりました。ありがとうございました。





中学生海外派遣事業を終えて

河南町立中学校三年 南口 麻理嘉

私がこのシンガポール海外派遣に参加を希望した理由は、私は小さい頃から留学を夢見ている、今回の海外派遣が留学の予行演習になると思ったからです。実際参加してみると、ひとりで留学したらどのくらい大変なのかが分かった気がしました。行く前は、適当なことを言っても通じるだろうと思っていましたが、全く通じず、すごく大変でした。現地の学校では、戸惑ったりせず積極的に話しかけないといけないと思いました。

この海外派遣事業でいちばん学んだのは、当たり前ですが、友達をつくる大切さと、英語が話せたら自分の世界が広がるし、人脈も広がるし、いろんなところで役に立つということです。もっといろんな世界が見れて価値観も変わるし、もっと楽しい人生が送れます。いろいろな国の人達と知りあえるだろうなと思いました。

これからは本当に本当に英語を勉強してペラペラになって、もっとグローバルな人間になって、世界で活躍できる人になりたいと本気で思いました。そしてまたいつか、現地学校でお世話になったチャンネルちゃんたちに会いたいと思いました。

この海外派遣は良い経験になりました。出会いの大切さ、英語の大切さ、人間はノリで仲良くなれるということを学びました。今回たくさ

んの良い出会いがあったし、神様が私にくれたチャンスだと思って生きて行きたいと本当に思いました。この出会いは縁があったからできたことで、本当に神様に感謝したいです。この出会いを大切にしたいと思います。現地の学校で現地の子たちと勉強するなんてめったにできないし、しかも抽選に当たるなんて、すごくラッキーだと思いました。神様のおかげだなと思って感謝したいです。この事業に参加したので、これからはいつどこで外国の方に話しかけられても、落ち着いて答えられる気がします。それがとてもうれしくて、いい経験になったと思います。何度も言いますが、SSTCで勉強したり、現地の学校の授業を受けたり、現地の子と話したり連絡先を交換したり、これらの経験はめったにできないことで、おとなでも海外に行ったことのない人がたくさんいるのに、親なしで行くなんて本当にすごいことだと思いました。

この経験をいろんなことにかしていきたいと思います。お風呂に入るにしても日本には湯船があること。飲み物にしても日本のほうが断然おいしいこと。シンガポールや外国の人のフレンドリーさを引き継いでみんなと仲良くなること。この事業で外国のいいところと日本のいいところ、ふたつに改めて気づいたので、どっちのいいところを見習って人生そのものにかしていきたいと思います。参加させてもらい本当にうれしく思います。ありがとうございます。





中学生海外派遣事業を終えて

河南町立中学校三年 三村 高星

今回の中学生海外派遣事業は、日本以外の国へ行って日本との違い、異国での新発見をしたいという自分の考えを持って参加しました。そのためあって、シンガポールではたくさんのことを学びました。今回は大きく分けて3つ学んだ事を紹介します。

まず1つ目は、シンガポールの町並みです。シンガポールには日本と違っておもしろい建造物がたくさんありました。日本は地震大国のため、安全面を重視した建造物がほとんどです。しかしシンガポールは地震が少ないため、大胆な建造物がみられました。例えば、有名なマリーナベイサンズのようなビルの上に船のような建造物やしぼられたぞうきんのような形をした建造物。また、まるで大きなキノコがたくさん集まった植物園のようなものなど、日本では見られない多くの変な形をした建造物を見ることができました。2つ目はシンガポールの人々についてです。世界一人口密度が高いだけあって多くの人が、いつでもどこにでもいました。僕はそれをエレベーターで体験しました。エレベーターに乗るといつも満員で4回も乗り過ごすこともありました。そんなたくさんいる人々は人種もいろいろで、中国系・インド系を多く見ました。

特に中国系は全人口の53%を占め、まるで中国に行っているような気さえしました。そんなたくさんの人種がいるシンガポールでは、異なった文化や宗教、考え方が見られました。その中で人々はお互いを認め合い、共存している姿を見ることができました。

そして最後に、今回一番学習できた場所、シンガポール現地学校 YSS での生活についてです。まず初めに驚いたのは学校の広さです。河南町立中学校の約3倍の広さがあり、食堂やたくさんの教室、おしゃれなガーデンなどがありました。とてもキレイで河南町立中学校もそれぐらい広く便利だと思ってしまうほどでした。その他にも、学校には黒板は一切なく全てホワイトボードが完備されていました。そのホワイトボードも使われることはほとんどなく、プロジェクターによって映し出されるスクリーンで授業を進めていること、先生がマイクを使って授業をすること、中国語の授業があることなど、日本と違うところが多くありました。いちばん驚いたのは、日本と違い授業がとてもフリーな感じで、生徒をあてるということもなく自由に発言し、トイレに行くときも自己申告の必要もなく自由に行く感じでした。クラスのみんなは右も左もわからないような状態の僕達にとっても優しく接してくれ、ずっとこの学校で勉強しても悪くないと思うほど充実した生活を送ることができました。

今回の中学生海外派遣事業では、普段日本においては味わえない体験をし、英語を使って実際に外国人と話してみても、自分の英語がどこまで通用するのかを確認することができて、英語で話す積極性を高めることができました。これらを生かして今後もさらに世界に興味を持ち、生活していきます。

現地での様子

Day 1 : 8月2日 (土) 雨	
21:30-22:30 22:55	<p>関西国際空港集合、チェックイン</p> <p>SQ615 搭乗</p> <p>中学生の家族、隅谷校長、寺田教頭、武田町長、新田教育長、辻本課長、森口係長が見送りに。</p> <p>中学生は「ドキドキする」、「実感がわからない」など興奮した様子だが、体調は良さそう。中学生同士も事前学習の時よりも打ち解けている。家族も心配しすぎることなく、笑顔で見送ってくれていた。</p> <p>機内では、まとまった席だったので学年・男女で固まって座り、それぞれ映画を見たり、寝たり。中学生はフライトアテンダントの英語に触れ、だんだんとみんな実感がでてきたようである。</p>
Day2 : 8月3日 (日) 晴れ	
4:00 頃 5:00 頃	<p>機内で朝食。早すぎて中学生は食欲がなかったよう。</p> <p>チャンギ空港着。中学生は眠そうで、元気がない。到着が早まったのと、迎えが違うターミナルに行ってしまったのでかなり待つことになった。</p> <p>空港内マクドナルドで軽食。2年女子はかなり元気がなく心配。</p>
7:30	<p>空港から出発。SSTC のローズさん方の運転する乗用車3台に詰め込まれる。三村高星は「いろいろなものをできるだけ見ときたい」と寝ずに一生懸命風景を見る。ビルのベランダや住居に多数掲げられた国旗に疑問をもっていたが、英語での質問はできなかった。</p>
8:00-9:00	<p>ローズロッジ到着。部屋割りの後、休憩。</p> <p>地階：食堂、教室</p> <p>1階：スタッフルーム等</p> <p>2階：男子、清水</p> <p>3階：2年女子、3年女子、向井、渋谷</p>
11:00	<p>集合。3年女子遅刻。全員まだ眠そうであまり元気がない。</p> <p>アテンド：アネリさん（SSTC スタッフ）打ち合わせに30分程度。</p> <p>※7ドル（1食分）配布。余れば個人所有になる。</p> <p>※電車・バスのプリペイドカード（中学生は一日ごとに回収）</p>
11:30-12:30	<p>昼食@グリーンウィッチ フードコート</p> <p>個々人で注文する。2年女子は食欲がないが、ご飯を食べたら少し元気になったよう。</p>
13:00 頃 13:20	<p>バスとMRTを乗り継いでSSTC（ドビーゴート駅）へ。</p> <p>クラス分けのためパソコンを使ったテストを受けようとしたが、ネットワークの具合が悪く、結局後で受けることになった。</p> <p>National Museumへ歩く。</p>

14:10-15:40	National Museum 写真や絵、物、映像メインの展示だったため、言葉はわからなくても楽しめたよう。かなりじっくり見ていた。 食、ファッション、映画など展示室ごとに分かれて生活様式を見せるリビングギャラリーを見学。シンガポールのミックスカルチャーを珍しく感じているようであった。なぜか入場料は無料。帰りの電車のなかではかなり疲れた様子。
16:40	ローズロッジ帰着。
18:15-45	夕食
19:10	クラス分けテスト 「ぜんぜんできなかった」「難しかった」「問題が読めなかった」など。英文で行うテストに戸惑っていたようだった。 20人ほどの日本人学生が到着。同じ部屋になる子たちもいて、ベッドの場所決めなどで時間がとられたよう。
19:50- 20:30	グリーンウィッチへ お菓子や飲み物を買う。男女それぞれシェアしながらお菓子などを買う。見たことのない商品をおもしろがりながら選ぶ。みんな笑顔で、かなり元気になってきたよう。モールに笑い声が響く。
22:30	消灯 ※ まだ、英語を使って交流とまではいかないが、十分に異文化には触れて楽しんでいた。団体行動を乱すこともなく、良い子たち。フライトの影響で体調が整わないせいか、中野愛はほとんどご飯を食べていない。お菓子は食べていたので明日の様子を見ることにする。英語でする買い物にはまったく抵抗がないようで、珍しいものに触れて楽しんでいた。

Day3：8月4日（月） 晴れ

7:00-	朝食
8:00	SSTCへバスで出発。予定より15分ほど出発が早まり、英語でアナウンスを入れてくれたが、聞き取れていなかった。
8:40-50	到着。最初にSSTCの紹介や注意事項などの説明。ほとんどが英語だったので、中学生にはわからなかったよう。
9:10-12:30	レッスン（Hecter先生） 日常の行動を英語で示す。 自己紹介 全員が同じクラスになった。すべて英語で進行する授業。日本での英語の授業が簡単に思えたらしい。「難しくて全然わからない」と泣き言。ちょっと嫌気がさしているよう。 自己紹介は「自分がするのは嫌やけど、人の聞いているのはおもしろかった」とのこと。緊張して詰まったり、どう言えばいいのか分からなかったり。

	<p>ramdam favorite things という設問が一番困ったらしい。何を言えばいいのかわからないから。自己分析のようなことを事前学習でも行っておく必要があるかもしれない。</p> <p>* 教室がとても寒い。途中から温度をあげてくれた。</p>
12:40-13:20	<p>昼食@park mall 地下</p> <p>7ドルを渡して自由に注文。注文にはあまり抵抗はなさそうで、適応力の高さがうかがわれる。</p>
13:30-15:00	lesson (Ashrae 先生)
15:00-15:30	<p>休憩</p> <p>「英語で話しかけられたら緊張する」別にかまれないと言ったら「犬のほうがいい」「授業がわからない」</p>
15:30-17:00	<p>lesson</p> <p>Ashrae 先生が男子は声が大きいし、発音もいいと褒めていた。本人たちに聞くと、そうでもないと言っていたが。女の子たちは、いっしょに写真をとってもらっていた。授業中は、とてもゆっくりしゃべってくれていたらしい。</p> <p>途中の休憩と違ってみんな生き生きしていた。クラスの子(中国系)が話しかけてくれたらしく「しゃべれんけどしゃべれたら良かった」と。全然聞き取れなかったが、facebook や e-mail を聞かれたことは分かったらしい。アドレスを聞いておいて、後で送ることもできるとアドバイス。次に SSTC にくるのは木曜なので、少し寂しげ。</p>
17:30-18:20	バス移動
18:20-18:40	<p>グリーンウィッチで買い物</p> <p>2回目なので特に混乱はなし。ほかの子たちとも少しは会話できた？</p>
18:50	ローズロッジ到着
19:00	夕食を食べながら明日のスケジュール説明
22:30	消灯

Day4 : 8月5日(火) 雨のち晴れ

7:15	朝食
8:00-8:40	<p>YSS(現地校)へ出発。「緊張しておなか痛い」「ドキドキしてきた…」と口々に不安を述べる。</p>
8:40頃	<p>YSS着。ウエルカム・パーティー</p> <p>vice principal のウーさんによる学校紹介。早口で生徒は全然わからなかったとのこと。</p> <p>教育に力を入れているのがよく伝わる。公立学校だが設備は整っていて、授業はパソコンを有効利用。映像・画像もすぐに利用。騒がしいクラスがある一方で、ひたすら勉強しているクラスもあり、学力に応じたクラス編制が行われているような様子。ロビーに置かれたピアノを学生が自由に触れられるようになっていたり、芸術の教室や工作室があったり。留学、旅行など海外に触れる機会も、多く設けられているようだった。</p>

9:00 頃-	<p>33 人のインドネシアからの交換留学生も到着し、部屋いっぱい。サンドウィッチ、ロールケーキ、デニッシュ、オレンジジュース等朝食が用意されていた。バディ登場。 テーブルごとに5~6人が座り5分ほど会話。男子は話しかけてくれるせいか、会話がはずむ。紙にも書いてなんとかコミュニケーションをとっていた。女子はなかなかしゃべれないようで、あまり盛り上がっていなかった。</p> <p>バディにつれられて、すぐにそれぞれのクラスに移動。3クラスに分かれていた。中国語の授業に入れられていて、みんな不安そうな顔で茫然としていた。</p> <p>中学生は授業はよく分からないが、バディが良くしてくれてなんとか交流できるようになったらしい。</p>
12:30	<p>昼食@YSS 学食。 「楽しかった」「帰りたくない」「留学したい」など充実した様子。学食の注文にもためらいはなかった。</p>
13:15-14:00	<p>UNT へ</p>
14:00	<p>キャンパスツアー。ボランティアで二人の女の子が付いてくれて、構内を見て回る。33,000 の学生を要する総合大学。</p> <p>中学生は「話していることがだんだん分かるようになってきた」そうで英語の環境に慣れてきている。途中構内で national holiday のイベントで、願い事を書いてつるすオブジェがあり、留学したい、英語がうまくなりない、などと書いていた。</p> <p>キャンパスツアーは移動距離が長く、写真をとったりして疲れたようで、帰りのバスのなかでは皆寝ていたが、楽しく過ごしていた。女子は海外で就職したいとか、留学とか夢が広がっていた。男の子は住むのはちょっと・・・とのことだった。男女間での感想の違いが面白い。</p>
18:00 頃	<p>ローズロッジ帰着</p>
18:30 頃	<p>夕食</p>
22:30	<p>消灯</p>
<p>Day5：8月6日（水） 晴れ</p>	
6:20	<p>朝食</p>
6:50	<p>出発（ナショナルホリデーのためなるべく早く行動）</p>
7:40	<p>YSS 着、バディが迎えにきて昨日と同じクラスへ</p> <p>家庭科や体育など、座学以外の授業にも参加。中国語の授業では「あいうえお」と名前をホワイトボードに書く場面も。</p> <p>日本語を知っている生徒が多かった。とてもうまい子もいて安心したらしい。日本に興味がある子が多く、日本のことを聞かれて答えられなかったことがあったらしい。</p> <p>授業の内容は分からないが、バディを始め生徒がとても親切にしてくれているようだった。</p>
12:30-13:00	<p>昼食@YSS 学食</p>
13:00-	<p>公共バスと地下鉄でマーライオンパークへ。</p> <p>アテンド：YSS モニカさん、途中からアネリさん。</p>

21:10 22:15 頃 23:00	songs of the sea を鑑賞。 バスでローズロッジへ。 ローズロッジ着。 消灯
Day6 : 8月7日 (木) 晴れ	
6:20 6:45-7:05 7:30 8:00	朝食 YSS へ (バス) 全校集会?のようなもの 生徒はバディーとクラスへ行き、授業へ。 引率組は principal に学校紹介をしてもらいながら校長室へ。廊下の壁面にある掲示、教科主任の部屋などを案内。 ・ 生徒数 1,200 人(4学年) 教員 100 人?(教科主任は顔の掲示あり) 事務職員 4 名 ・ 優秀な生徒が掲示される。 ・ 生徒自身によるオリジナルグッズや冊子を毎年作っている。 ・ 多様な活動 1 つは部活に入らねばならない。週に 1 ~ 2 回、大会などがあると毎日になる。 校長は今回の訪問の目的を知らなかった。第一の目的は英語を学ぶこと、第二には交流をすることと清水指導主事から説明を行った。 HUMANIC、SSTC のスタッフに聞くと、政府がかなり教育に投資している。
12:30 13:30-17:00 -18:20	昼食@YSS SSTC で英語レッスン dinner@parkmall セントーサへ マーライオンを見て、ショー-songs of wings へ。
1:20-40 21:50 頃	greenwitch で買い物 ローズロッジ帰着、順次消灯
Day8 : 8月8日 (金) 晴れときどき曇り	
6:45-7:00 頃 7:30 8:00-9:00	YSS へ national day を祝うため、授業なし。金・土とセレブレーション 国旗掲揚@ground 舞台@体育館 生徒による寸劇、ダンス、クイズショー(問題は国に関するものがおおい) など。 教師によるライブ。ショーが終わった後は、出店(生徒による)で買い物、飲食など。バディが付いてくれていた。ただし、女子はかたまって日本語で会話する傾向にある。
10:00	good-bye party 挨拶、インドネシアへ行った留学生のビデオ、インドネシアの学生による民族舞踊、ランチ、プレゼント交換

	<p>8月の誕生日の学生（乾くん）に、ケーキを用意してくれていた。</p> <p>インドネシアからは教師同士も記念品（盾？）を交換していた。準備してくれた2名の教師、vice principal、principal の分だけでも準備しておくべきだったかもしれない。</p> <p>なお、YSS では引率者にはだれがどこにいるか、何の授業を受けていたのかは分からなかった。家庭科や体育があったところもあったが、事前には分からない。「帰りたくない」「初日に戻りたい」などと口にし、泣く場面もあった。英語が分からないながらも、交流ができていたよう。メールや twitter、facebook を教え合い、今後の英語学習の動機になった。YSS の学生にもなにかいい影響があればいいと思う。</p> <p>驚いたのは、日本語をしゃべれたり、しゃべれないまでも簡単な挨拶を知っていたりする学生が多かったこと。また日本のアニメーションについて聞かれることも多かった。</p> <p>YSS の学生は、非常に自主性が高い。イベントの準備や運営を見ていて、日本では高校レベル程度に感じた。</p>
13:20	YSS へ
14:00-17:00	英語レッスン 証書をもらう
17:30	ナイトサファリへ KFC で夕食、後 show へ。SSTC のローズさん。 非常に人が多く、ライドに 40 分待ち。
21:40	ローズロッジに出発
22:30 ごろ	帰着
Day9：8月9日（土） 晴れ	
8:00	朝食
8:30	集合、打ち合わせ
9:00	出発 A：川村組 清水、渋谷、モニカ 17 時過ぎに帰着 B：パンディ組 向井、Soko 18 時ごろ帰着
18:30	夕食@green witch
20:30-21:30	作文 flight delay の一報。 10日 changi 8:00 発、関空 15:30 着の便に。 LINE で連絡をとり、生徒の家族には役場（森口係長）から電話してもらう。渋谷氏からでも可能であったが、通常連絡をとりあっていたのが役場だったため判断。
4:45	集合・出発 空港で朝食 搭乗、8:00 離陸 生徒は帰りたくないらしい。
7:00-	15:45～16:30 着

報告者：教育課 主任 向井 妙